

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和 4年 2月28日

事業所名 放課後等デイサービス れがって

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	活動内容や利用者人数に合わせ、机を移動させ適切な配置にしている。	引き続き、近隣の公共施設や公園など社会資源を利用しながら活動として取り入れていく。
	2	職員の配置数は適切である	63%	25%	13%	定員10名に対して、職員4～5名を配置している。	活動内容により、配置数を増やす。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	63%	25%	13%		出入口の階段には、手すりや滑り止めを貼り事故を防止できるようにしている。段差等の声掛けを継続して行う。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	63%	25%	13%	日頃から職員同士で話し合いを欠かさず持っている。	個別支援、全体活動など、会議で全員が同時に共有できる場を増やしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	0%	保護者の意見・意向が出た際には職員全員で話し合いを持ち、共有している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページに掲載している旨を連絡している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13%	63%	13%		外部評価は行っていないが、保護者からの評価を共通理解し業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	定期的に勉強会やAED・虐待防止等の研修の機会を設けている。	研修へ行った職員が内容をまとめ、職員に回覧し全員が把握できるようにしている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	日頃から連絡を密に取り、利用者が置かれている状況やニーズの把握ができるようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%		活動会議を行い、利用者が意欲的に参加できる活動の組み立てを心掛けている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		書籍やインターネットも使い、それぞれの支援計画に沿いながら、様々な活動ができるよう工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%		平日は個別支援、制作活動、室内・戸外レクなどを行い、長期休暇は体験活動、遠方の社会資源利用、生活訓練など色々な体験ができるよう設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		子どもの状況に合わせて、個室を使用し個別活動を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%		毎朝、朝礼を行い、ホワイトボードを活用し、送迎・活動内容・支援内容の打ち合わせと役割分担を把握できるようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%		振り返りや気づいた点はその日のうちに話し合いを持ち、職員間で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%		手書きでの記録を取り、パソコンに打ち込むことにより、内容の検証を行い、記録に偏りがないかチェックをしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%		多くの職員が参加し、年に2回以上定期的にモニタリングを行い、計画内容の進捗状況を確認しながら必要に応じて支援の内容を変更している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%	0%	0%		利用者に合わせて支援を行っている。また、虐待防止研修、非常災害対策などを実施している。
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		児発管が参加し、担当者会議前には職員、保護者への聴き取りを行っている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%		学校送迎時や電話、連絡帳で情報の交換や共有を行い、必要な時は会議を開いている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	0%		該当児童がいらないが、今後受け入れがあるのであれば密な連携と連絡体制を整えていこうと思っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%		サービス開始前に聴き取りを行い、適宜情報を頂けるよう連携を取っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	88%	13%	0%		現在は該当者はいないが、該当者がいる時は、密な連携と連絡体制を整えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%		助言や研修を受けた際、職員が周知できるよう資料を作成し回覧している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	63%	38%	0%		公園で地域の児童と遊ぶなど交流がある。感染症が落ち着いた時に交流を計画したい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	38%	63%	0%		新型コロナウイルス感染防止のため、現在は参加できていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	通信やメールなどで活動時の写真を送ったり、様子を伝え、共通理解ができるようにしている。	送迎時や伝達事項の連絡の際に、家庭での様子や状況をうかがっている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	0%		子どもの様子や保護者の状況に配慮しながら、適宜行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時、重要事項説明書をもとに、支援の内容、利用者負担などについて説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	送迎時や面談で様子を聞き、事業所での様子をお伝えし、助言できる場面ならば助言をしている。	相談を受けた際には個人で判断せず、必ず職員間で共有し話し合いを持ち、適切な支援が行えるようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	63%	38%		新型コロナウイルス感染防止のため現在は設けていない。またそれぞれの保護者が忙しく、子どもの障がいの程度も違うため、会の設定が難しい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		各担当を設け、常に体制を整え、適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%		月に一度、通信を発行し積極的に発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		保管には金庫を使用し、厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		それぞれの対象者に適切な形（ツールの使用など）で伝達している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	0%	100%		開かれてはいるが、個人情報の問題や防犯の面から招待することが難しい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	事業所入口に掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。通信などで周知を心掛けている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%		定期的に活動に組み入れ、職員の役割分担をしながら訓練している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%		話し合いや啓発など、詳細に対応している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%		重要事項説明書への記載と口頭での説明でご理解と了解をいただき、支援計画へ記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	0%		該当児童が在籍していないが、受け入れがあった場合は担当医師と密に連絡を取り情報の共有をしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%	0%	研修時に報告を行い、職員に共有する。	該当事例はないが、発生した場合は全職員に共有し再発を防止する。